

提案型企業を目指し技術力を強化 新規事業に挑戦する

課題

事業承継期を経て 会社のこれからの模索

鉄・ステンレス薄板板金加工を得意分野とする板金加工・溶接加工業を営む工藤製作所は、各工程において従業員が対応可能な技術力をもち、少量生産、緊急対応にも応えられる体制を強みとしている。前経営者の死去にともない、急遽、事業を継承することになった現経営者は、それまでは技術系のサラリーマン。経営ノウハウがなく、経営者としてなすべき業務、記帳の仕方、各種届出書類の作成といったことも含めてまったく一からのスタートだった。そのため、かつの商工会がさまざまな支援を行ってきた。

事業継承から4期を経て経営が安定し、利益も確保できる状態を達成した経営者は、「小さい下請企業ではあるけれど、これからは下請けだけでなく新しい取り組みをしたい」と意欲を燃やし、法人化を含めてこれからの事業形態をどうすべきかの検討を始めた。下請から脱却し、提案型企業となるための技術力の強化を図るため、新設備の導入と新製品の開発、コストダウン、短期対応の体制確立を目指し、商工会に事業計画作成のサポートを依頼した。

支援

設備導入や工場移転、法人化で 企業の競争力をアップする

最初に取り組んだのは、ボトルネックとなっていた溶接工程の強化だ。溶接強度を高め、密閉性と歪みを低減させ、仕上げ不要となる新設備を導入すれば、品質の向上と溶接工程の作業効率の向上を実現することになると考えた。

秋田県商工会連合会北部支援センターからの専門家派遣指導を受けながら、経営革新計画、ものづくり補助金の採択を目指したが、新規性が認められないとして結果は不採択。続けて県産業技術センターから指導を受けて挑んだ、秋田県ががんばる中小企業事業も採択に至らず、何度も挫折しかけた。それでも経営者はあきらめずに再度、ものづくり補助金に挑戦し、ついに採択をつかみ取った。新設備導入のための資金はマル経制度を活用しての調達を支援。ようやく新設備「ファイバーレーザー溶接機」の導入にこぎつけた。

法人化については、専門家に法人化した場合のシミュレーションを作成してもらい、メリット・デメリットを検討、平成31年を目途に法人化するタイムテーブルを作成した。ま



導入したファイバーレーザー溶接機

た、経営力向上計画の認定を受けて、商工会は即時償却や固定資産税の軽減を図る手続きなどの指導を続けた。

さらに、新設備の導入や生産効率の向上のために、利便性の高い高速道路の入口付近に工場を移転させることが決まり、鹿角市企業立地助成金の申請を支援。操業開始をスムーズに行うため、工場移転に合わせて企業イメージの向上と社内の意識改革を目的としたCI戦略を行うなどして、5年後には新規取引先5社と売上高10%増の実現に向けて、さらなる挑戦を続けていく。

支援の経過

期間	支援内容
H26年	ものづくり補助金の申請支援
H28年	経営革新計画、がんばる中小企業認定の申請支援
H29年	ものづくり補助金の申請支援、資金計画、実行支援
H30年	工場移転支援、持続化補助金の申請支援

会社概要

会社名：工藤製作所
住所：秋田県鹿角市十和田末広字谷地中16-3
電話番号：0186-25-8073
URL：<http://kudo-ss.com>
代表者名：代表 兎澤卓美
創業年：平成26年
年間売上高：6269万円（平成29年）
従業員数：7名
商工会名・担当者名：かつの商工会・安保奈緒美